

## 第2回 まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会会議要旨

日時 平成28年7月12日(火)

午後6時30分～9時10分

場所 宮代町役場202会議室

### 【出席者】

委員：佐々木誠・深井義秋・小田桐静子・千葉庄一・渡邊朋子・中島敏郎

事務局：大橋企画財政課長・野口副課長・榎本主査・小島主任

### 【会議資料】

- ・宮代町まち・ひと・しごと総合戦略平成27年度進捗状況
- ・宮代町まち・ひと・しごと創生総合戦略平成27年度進捗状況 資料集

### 【会議要旨】

まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成27年度進捗状況について、事務局から説明し質問や意見を伺いました。

**事務局**：基本目標1の内容について質問、意見があればお願いします。

**深井委員**：町は、「農」のあるまちづくりということを打ち出しています。新しい村は、第三セクター、指定管理者、現在は直営ということになっています。私自身も、生しいたけの生産者組合として参加していました。生産者組合の役員たちと新しい村の社長の意思疎通が合わなく、社長が3回も代わっています。指定管理が終了し、直営になった経緯も知っています。今後産業観光課が新しい村をどう運営していくかですが、私は上手くいかないと考えています。今現在も3,500万ほど町から補助が出ています。新しい村は株式会社であり、私も株式会社を経営していますが、本来株式会社は利益を追求するものです。役場は、利益を追求しなくて良いのかもしれませんが、しかし、新しい村は助成金で人件費をカバーしようとしているのがわかります。今後「農」のあるまちづくりというのはやめて、他のことを見つけた方が良くと思います。

**事務局**：新しい村は、現在立て直しをしている最中です。いましばらく新しい村については見守っていただければと思います。他に基本目標の事業に関してご意見はありますか。

**千葉委員**：私自身はボランティアでいろいろ参加していて、遊休農地の解消についても4年前にボランティアとして参加しています。遊休農地を町がどういうつもりで、そばづく

りや貸農園として農地を貸しているのかわかりませんが、私は、「農」のあるまちと農業の生産性のある町は違うと認識しています。

この町は規模も小さいし、何かを作ってそれが売れるという状況にはなく無理だと思います。「農」のあるまちづくりという考え方は、農を体験させて、町の農を活性化できるしくみが欲しいのだと思います。新しい村で、都会の子ども達を集めて田植えなどの農体験をしてもらうという事業は良いと思いますが、株式会社としてこの事業だけでは成り立たないと思います。私はガイドクラブを運営しています。その会議が埼玉県で行われた際に、グリーンツーリズムについて説明しましたが、とても大事な事業であると指摘を受けました。さきほど深井委員が指摘されていた、新しい村の事業として利益がでるのか、ということと、この町の自然を体験するという「農」のあるまちとを、どう両立するかが問われていると思います。秩父にお相撲さんがやっている宿があり、これの評判が良いのです。町は、物を作って売れるほどの状況ではありませんが、自然はあるのでこれを利用して外から人を呼び込む、そして農業については指導者がいるので、田植えや稲刈りなど農の体験をしてもらう。そのための遊休農地の活用だと思います。地産地消ではない「自産自消」です。宮代町はこういう農でない無理だと思います。

**佐々木委員**：お二人の考え方は、6次化の部分の話だと思いますが、今の千葉委員の話がわかりやすく、6次化産業というと、物を作ってそれを売るという発想があります。物が売れないのであれば体験してもらう、どちらをとるのかということが明確にここにはないと思います。ただ、私は売ることが無理であるとは思っていません。昨年のトウモロコシフェスティバルに来てみましたが、とてもよかったです。地方に行くと6次化産業で物を作ってそれをブランド化して売っているということがよくあり、東北などもそうです。どっちなのかということが、不明確であるし、戦略も不明確です。とれた物をただ売るというだけでなく、売れるためにパッケージをもっと考えたり、ブランド化したりと、投資した分は、採算をとるという考えをもってほしいです。また、それをどうチェックしていくのか、という視点がここには見えてこない、と感じました。

**千葉委員**：ガイドクラブで巨峰といちじくの農家を巡るツアーを考えていますが、巨峰やいちじくを新しい村に出すだけでは生産性はありません。さきほどの説明にあった並木さんも、新規就農者は作ることはできるようになりますが、作るだけで終わってしまいます。物を作って、加工して、保管する、物を作っても安定的に作れる状況ではないので、そういうトータルな考え方が6次化には欠かせない、と話していました。ではどうすれば良いのでしょうかという問いに、農を体験して、民泊するというような、総合的は仕組みが必要だと言っていました。私自身も遊休農地の解消をやりながら、どういう形が良いか考えています。

**事務局**：6次化ということがキーワードになっていて、生産加工販売をどうしていくかが

課題となっています。担当課と一緒に考えていきたいと考えています。基本目標のうち雇用を生み出すという点で、なにかアイデアはありますか。

**佐々木委員**：先ほどの話で宮代高校の方が関わっているとありました、それはとても良いことだとは思いますが、投資が弱いのではないかと、とも思います。プロではない、ボランティアです。何かできるかもしれませんが、全国や東京などに売り出そうとなると、難しいです。投資した分が、ほとんど回収できず終わってしまいます。宮代高校や地域の人に協力いただくなら、そこにプロも入れて共同商品開発をするなど、高校生のアイディアをプロが商品化し世界にも誇れるようなものを作れば売れるようになると思います。そういう戦略がないと思います。予算がないというのもわかりますが、投資しないと良いものはできません。投資することで雇用も生まれますが、ボランティアにばかり頼っていると雇用は生まれません。

**千葉委員**：それはトウブコフェスティバルによく現れています。トウブコフェスティバルはプロをいれたことで、あの賑わいを生んだのです。6次化の商品開発も同様に、いくら頭のきれいなボランティアであっても上手くいかないと思います。

**中島委員**：今出された意見はわかりませんが、今日の主旨がよくわかりません。この総合戦略は内容が書き足りない、だからいろいろ意見が出ていると思います。こうしたら良いとかああしたら良いとか、これ以上やっているとこの総合戦略自体没になってしまいます。今日は進捗をやるのか、これについての意見を求めているのか、あいまいになっています。先週言ったように意見を聞いてそれをこの総合戦略に載せるべきで、KPIについてもそうです。今日は、進捗をやるのではないですか。また、今日の進捗を行う前に、各担当と進捗会議をやっていますか。どうやら進捗会議を各課と行っておらず、今日があるように思えます。もし、そうであるなら、それにあつたやり方もあるので、どうでしょうか。

**事務局**：本日は、各課がまとめた進捗をもって資料としています。

**中島委員**：事務局が各課に進捗状況として、やった結果についてどうだったのか聞いたのでしょうか。恐らくやっていないと思われるので、そうであるならば、この場で進捗会議をやるのか、ということを知っています。この場でやるなら、いろんな意見を出しても仕方ないと思います。まずは、半年間の実績を見ないといけないと思います。

**事務局**：この会議は審議会ではなく、懇話会という形です。専門家としての意見ではなく、いろんな分野の意見をアイデアとしてもらえればという考えで懇話会としました。進捗についても報告はしますが、目標に達しなかった原因を追究する場としてこの会議を設置したのではなく、さきほどのような意見をいただければと考えています。

**中島委員**：先週、佐々木委員から、この会議の設置規程を見て、この会議は何をやるのか質問がありました。その際に回答がなかったと思いますが、その規程の中に進捗についてという言葉があったと思います。サラリーマンとしての私の個人的な意見ですが、進捗というのは進捗会議と捉えています。この1ページに進捗という言葉もあります。この会議が懇話会というのも最初から違和感がありました。談笑するだけで終わってしまうのかとも思いましたが、進捗という言葉があるので、整理しないとまずいと思います。

明日の農業担い手支援事業で、担い手塾とあるが、「塾」というと頭に浮かぶのが吉田松陰の松下村塾です。予備校ではない、社会人のための塾であるのだから。この塾の中では、経済学とか経営学とか地政学、気象学、といった学問的なこともやり、実践的なことも行い、すべてを終えて卒業した人が1名ということなのではないでしょうか。塾は4年間かかるということなので、半年の間に1名の方が勉強して卒業したということですが、これは1名と数えてはいけないと思います。去年の10月から採用して卒業して、宮代町で農業を営んだ場合、1名とカウントすべきです。

**事務局**：当然4年間勉強して卒業した方ですので、この事業は4年前から始まっています。

**中島委員**：先週も話しましたが、総合計画を引き継いで総合戦略を作っているからおかしいのだと思います。これはあくまでも総合戦略のみの話です。

**事務局**：第4次総合計画が10年間の計画であり、前期と後期に分かれており、後期と総合戦略は時期が重なっています。また前期と後期では数字も変わっています。

**中島委員**：そうであれば、総合計画を総合戦略の中に入れてしまった方が良いのではないのでしょうか。そうしないと、すっきりしません。総合計画は失敗であり、それを引きずって作っているからおかしいのであり、どうにか人口を右肩上がりを持っていく、あるいは国が示すような現象にもっていきべきだと思います。その努力をするために総合戦略を作っているのです。そうでなければ、私たちに総合計画の資料と総合戦略の資料を示して判断しなさいというのであれば分かります。でも私たちには総合戦略の資料しか渡されていないので5年前の総合計画を引き継いでいるといわれてもわかりません。

**事務局**：事業の始まりが総合戦略ができた時点での進捗であればわかりませんが、そうでないので中島委員の言うことも理解できます。

**中島委員**：産業観光課が、総合戦略と総合計画をごちゃまぜにやっているので進捗がわからなくなっています。

**千葉委員**：この町が何人の職員で仕事をまわしているかご存知でしょうか。実態的に町の人口も落ちて、高齢化して生産人口もいなく、産業観光課の職員は5人ほどで、この町の観光も農業もやっています。

**中島委員**：だからこそ総合戦略と総合計画の二本立てでやるべきではないと考えます。

**事務局**：町が目指すところは一つです。総合戦略の面で見てください。

**中島委員**：そうすると1名というのはおかしいです。

**佐々木委員**：先ほど事務局からの説明でもありましたが、進捗会議ではありますが、結果の数字がおかしいとか、そういうことを議論するために私たちが集まっているわけではないのです。この中で設計したことが100%うまくいくなんであり得ません。その場合そこをどうしたら補完できるか、こうしたら良いなど、私たちのぎっくばらんな意見を受けて、庁内に還元して、前向きに捉えて改善していただければという会議であると考えます。専門的な進捗の分析とか計画のそもそも論などを議論する場ではないと思います。

いろいろな視点で気づいた点などをこの場で共有できれば良いと思うのですがいかがでしょうか。

**事務局**：事務局の方で主旨を明確にしなかった点は申し訳ないと思っています。達成状況について、いろいろ意見交換できればと考えています。

**中島委員**：進捗を細かくやるつもりはないのですが、ここができなかったなど数字を見ればわかります。なぜ達成できなかったのか、それを示してほしいのです。やったことだけ並べられてもそれではわかりません。目標を達成することが目的であるのに、5年間のやったことを述べて、結果、目標が達成できなかった、というようにしか見えません。こうすればよかったなどの対策がほしいです。厳密的に数字を見るつもりはないのですが、5名の目標に対して1名というのは達成していないと思います。

**佐々木委員**：それは庁内で進めるか第三者の専門機関を交えて行うことで、この場でやることではないと思います。

**渡邊委員**：私がこの会議について、事務局から聞いていたのは、事業に関して、こうしたら上手く行くのではないかとか、アイデアを出してもらおう場であると聞いていましたが、それでよろしいでしょうか。

**事務局**：そのとおりです。

**渡邊委員**：そういうことであれば、事業について、これからこうしたら良いなどと、この場で共有できたら良いと思っています。

**事務局**：総合戦略は、国の指針に則って作成していますが、不備があって申し訳ないと考えています。この場は、皆さんから意見をいただくために集まっていますので、それを持ち帰り次に繋げていきたいと考えています。消化不良になるかもしれませんが、よろしくをお願いします。

細かく議論するものではありませんが、資料を見て深追いしなくてもわかるように、今後はわかりやすい資料を作っていきたいと考えています。次に基本目標2について説明させていただきます。

**事務局**：ここは宮代のファンを増やすために宮代をPRしていくということがポイントだと思いますがそういう視点でなにか意見ををお願いします。

**佐々木委員**：町がやっていることとNPOが非営利目的でやっていることと民間事業者が利益目的で行っているのと、どれくらいの割合なのでしょう。印象的にボランティアが実施している部分が多く感じます。費用をかけなければ人が来ないのではないのでしょうか。

**中島委員**：町外参加者数というのはどのようにカウントしているのでしょうか。

**事務局**：小人数のイベントであれば参加申込みの際の住所で判断できます。規模が大きなイベントでは、受付の際に確認したり、一定の範囲の中の人数をカウントしてその中で調査するといった方法です。

**千葉委員**：町はイベント数が全体でいくつあるのか把握しているのでしょうか。宮代町はイベントの数がとても多いと思います。町というより住民が個々にやっているものも多く、そこに関わっている住民が何人いるのか全部把握しているのでしょうか。宮代町は、イベントを開催してPRを図ろうとしています。イベントを町全体で把握して判断して行って欲しいです。

インターネット放送局も特派員が今何人でやっているのか把握しているのでしょうか、現在のものは7割私が作ったものです。私はボランティアとして行って、ガイドクラブもそうですが、それを町の事業としてここまで書かれると、ボランティアとして与えられたものに対してこれほど結果を求められても、どうすれば良いのか正直困ります。

**中島委員**：人数で効果を図るものではないと思います。

**千葉委員**：イベントの数が問題であると思います。

**事務局**：過去に同じような意見があり、効果的にイベントを行うために2005年に行革の関係でイベントの数を減らしたという経緯があります。この意見は重く受け止める必要があると思います。

**千葉委員**：町民が関わるケースが増えています。ひなまつりや竹アートなどがそうです。実行委員会とはどういう責任があるのかわかりません。予算もあるわけではなく、自力で人を集めるものもあり、たくさんあるイベントを町がどう把握して、まちづくりにどう生かしていくのかというところだと思います。

**事務局**：市民団体が行っているイベントが町内にはたくさんあって、それらをすべて把握するのは難しいところです。事業を限定して町外者がどれくらい参加しているのかというところで、この事業の指標とさせていただいています。新しい人の流れを作るという意味で、人数を指標にしました。

**佐々木委員**：指標のとり方はそれほど重要ではないと思います。

**事務局**：さきほど佐々木委員からの質問に答えていなかった点で、事業をボランティアとプロとで担っている割合ですが、インターネット放送局は市民の方、観光推進事業も市民のボランティアに担ってもらっています。それとは逆に、ふるさと納税制度は民間の事業者とコラボして行っています。民間の力はすごく、結果として1億円を超えるふるさと納税をいただいています。必要なところに民間の力を使うことは大切であり、イベントでも専門家を連れて行うという視点も必要だと感じています。

**佐々木委員**：逆に町直営のイベントというのはあるのですか。

**事務局**：町単独で行っているものはほとんどないです。商工会が関わっていたり東武動物園が関わっていたりします。

**佐々木委員**：では経費は町からでているのでしょうか。

**事務局**：そういうものもあるし、そうでないものもあります。

**中島委員**：イベントに参加している人たちにフェイスブックやツイッターを利用してもらう、1つのフォーマットを作って上手く参加人数などを把握することもできるのではないのですか。

**事務局**：それはすごく良い意見ですね。

**中島委員**：スマートフォンを持っている人は全員できると思います。ただ個々でやってもわからないので、町で1つフォーマットを作る必要はあります。

**千葉委員**：データを収集する方法として、参加者を受け付ける場所がないのが原因だと思います。他の土地ですと、観光協会などがあるので一括で把握できますが、町にはそれがありません。個々のイベントで行っているの、ロスがあると思います。

**事務局**：ここで民間との協働が重要になってきます。先日 NTT と話す機会があり、スマートフォンの普及率がガラケーを超えたということです。スマホを使って観光で町に今どれくらいの人がいるのか、などが把握できるとのことでした。民間ですので経費はかかりますが、必要であればそこに投資して、観光事業に生かしていくということもあると思います。

**千葉委員**：町に来た人に対して、情報を発信して、そしてリピーターを増やしていくということも重要です。今の状況ですとそれができていません。

**中島委員**：1番重要なのはリピーターがいるかということです。そのカウントもそういうシステムを使ってできるのでは。

**事務局**：いろんな媒体でシステム使って把握するのもひとつだと思います。また、外から来てもらうためには、外に対して発信しないといけないので、その場合にまた媒体を使って行うということもひとつだと思います。今後もっと考えていかないといけないと思います。

**中島委員**：発信の際に注意しないといけないのは、YouTube 使う場合、有料化になりますと誰も見なくなってしまう可能性があります。また、著作権をきちんとしないといけないので、町がやろうとしていることが本当に大丈夫なのかということです。

**千葉委員**：著作権について、町のインターネット放送局は、YouTube から発信しているのですが、町の YouTube については著作権に詳しい専門の方が全部チェックしているので、その点についてはクリアしています。

**中島委員**：ひとつの団体が行う場合はチェックをかけてクリアできますが、これからは誰でも作ってアップする可能性もあるので、スマホなどで個人が作った場合でも町として注意しないといけないと思います。



**事務局**：町で管理しているものについてはチェックできますが、個人が作って投稿しているものについても気をつけていかないといけないと思います。

**千葉委員**：インターネット放送局の視聴率が上がらない原因に、インターネット放送局を町内で知っている人がどれくらいいるのかというところだと思います。進修館などでインターネット放送局が見られるようお願いしてほしいです。インターネット放送局を町のロビーや進修館など公共施設で見てもらえる努力をしてほしいです。

**事務局**：はい、努力してみます。お店など食事をしながら宮代町のインターネット放送局が見られるような提携もとれたら良いと思います。

**深井委員**：インターネット放送局は知っていますが、町のホームページ「[電腦みやしろ](#)」のどこから入ればそれが見れるのかわからないです。

**佐々木委員**：アイデアとして、防災のコンテンツを作って、それと抱きあわせて千葉委員の作った映像を流すなど、文化的なことと、命に関わる重要なこと、避難場所などを併せて見せるのも良いと思います。

**千葉委員**：そうですね、防災はまさにピッタリだと思います。

**佐々木委員**：小学校の運動会が見られることなども良いですね。

**深井委員**：町の防災訓練や地域の行事への若い人の参加が少ないです。若い人が参加できる仕組みも必要だと思います。

**千葉委員**：実は、防災訓練も作って流しています。ただ、視聴率が低いです。

**事務局**：たくさんの人に見てもらえるようにさきほどのご意見を担当に伝えて、インターネット放送局も多くの人に拡げていきたいと思っています。

**中島委員**：コンテンツは重要で、子ども目線が重要です。大人目線でなく、小、中学生にどんなコンテンツがほしいのか聞いてみるものも良いと思います。逆に大人であっても興味がないものは見ないです。良いものと興味があるものは別です。コンテンツをどういうものを使っていくかということが1番重要です。見る人の目線にたって、見る人が何を見たいのか、小学生や中学生など見る立場の人間を選んで、意見を聞いて、内容を作っていく、町民全員参加の形が良いのではないのでしょうか。

**事務局**：子どもは小さいころからスマホに触れているので、いろんなことを検索しています。子どもの目線で作っていくというのは良い意見です。

**千葉委員**：子どもに作ってもらうというのがあります。今、日工大の学生さんに作ってもらっていますが、子どもに作ってもらうというのも良いと思います。

**事務局**：日本工業大学とうまく連携して子どもたちに作り方を教えてもらって小中学生が作ったというものをやれば良いと思います。

**中島委員**：日本工業大学だけでは、男子しかいないのでダメです。やはり女性の立場で作るということも必要です。共栄大学には女子がいますね。

**事務局**：実はインターネット放送局を始めたときは、宮代高校に放送部があり、一緒にやっていました。そこには女子の部員がいました。確かに若い人の目線というのは大切だと思います。

**事務局**：子どもをたくさん出すのは著作権上いろいろと問題があるのでしょうか。

**中島委員**：出すのはアイデアだけなので問題はないと思います。

**事務局**：子どもがたくさん出ることで、その親が見ると思うのですが、著作権上問題になるのでしょうか。

**千葉委員**：それはある程度セーブできます。子どもがどういうことに興味があるのかという点で、もちろん私もそういう目線で撮ってはいますが、結局それは大人の私が撮っているので子どもが遊んでいるところを撮っているという傾向にあります。

**佐々木委員**：運動会など出していないのですか。

**千葉委員**：出していますが、それが子ども目線なのかどうかというとそれは別だと思います。

**中島委員**：子どもの顔が出ているのですか。

**千葉委員**：出ていますが遠めから撮っています、やはり了解を得ないと出せないです。

**事務局**：インターネット放送局を始める時にNHKのガイドラインを参考にしました。実際顔が映っているということはNHKのニュース映像などにもあります。公共性があれば大丈夫で、顔が映っていること自体で法律違反ということはないようです。ただ、あまり寄った写真は基本的に使わないようにしています。

**渡邊委員**：中島委員にぜひ教えてもらいたいのですが、宮代のファンを増やすため、町外の人をイベントに参加してもらうためには、どんなものがあれば宮代町に行ってみようと思いますか。

**中島委員**：特徴のあるもの、宮代にしかないもの、なかなか浮かばないですが。

**千葉委員**：私は逆で、宮代町はインターネットの導入が早かったと思うのですが、それを上手く展開できていないと思うのです。どこにチラシを配れば良いのかなど悩みます。先ほどの佐々木委員の言うとおおり、プロの力に頼って発信してみようかなと秋のイベントに向けて考えているところです。

**事務局**：イベントなど対象によっては雑誌などを使うと参加者がすごく増えたりとかします。経費もかかるがその分回収できます。

**佐々木委員**：今のところ、東武動物公園と日工大の学生が町外から来ているのですから、その人たちにどうアピールできるのかということですね。

ただ、駅前に何もないので、インターネットを見ることができるような拠点など、駅前に魅力があると良いのですが。

**千葉委員**：駅前の問題は西口にトイレがないことです。商工会の人と話したのですが、空き店舗を利用して貸しトイレを作って、そこでインターネット放送局など流しても良いのではないかと。

**事務局**：では、基本目標3について説明します。

**事務局**：(説明後)子育て環境の整備というところが大きいと思いますが、ご意見はありますか。

**中島委員**：参考までに保育所に入っている人というのはどれくらいいますか。

**事務局**：保育所は町内に町立が2園と私立が3園の全部で5園あります。それぞれ定員が違うのですが、全体で500人前後くらいだと思います。

**中島委員**：私個人の意見ですが、それなりに収入があれば保育園に行かせる必要はないのかと思います。保育園に行かせる年齢くらいまではせめて親に見てもらいたいと個人的に思います。

**事務局**：女性の社会進出もあります。共働きの世帯が増えています。

**佐々木委員**：シングルマザーも最近増えています。裕福な家庭であれば良いのですが、全員がそうであるわけではないので、誰だって可能なら家庭で、自分で面倒を見たいと思います。

**事務局**：子どもを預けなければいけない環境であるという方も多いと思います。それが出生率の低い原因でもあると思います。アンケート調査でも経済的な面が希望どおり子どもを生めない理由の上位にあります。町内でも全国的にも経済的な支援がほしいというのがあります。

**深井委員**：日本の経済状態も中小企業でも給料を多く支払いたいが、そもいかないのが現実です。

**事務局**：ここに上がっている事業について、子育てに限らずなにかご意見等ありますか。

**佐々木**：婚活事業で、カップル成立13組というのが多いのかどうかはわかりませんが、産業観光課が企画しているのでしょうか。これこそ民間の力を使うべきだと思います。町コンとして、町はサポートで名前を出しても良いと思いますが。

**深井委員**：この13組というのは、実際に結婚までした人たちですか。

**事務局**：お付き合いしたカップルの数です。

**深井委員**：実際に宮代町に住んだのは何組くらいいるのですか。

**事務局**：この事業をはじめて数年経ちますが、3組くらいしかいません。

**佐々木委員**：これこそ民間にお願いすべき事業であると思いますが。

**千葉委員**：産業観光課とはいえ、実際は新しい村が行っているなので、町が全面に出ているというわけではないと思います。

**佐々木委員**：そこは町内でまかなおうとせず、やはり町外の企業にお願いした方が良いと思います。それがまた宣伝的な要素にもなり、町外から人も呼び込めるのでは。

**千葉委員**：和e輪eでも婚活を企画しているのですが、それだってたくさんあるイベントの中の一つとして行っている状況です。

**深井委員**：中途半端ではなく、同じようなことをやるのであればテレビでやっているように全国から人を集めて、もっと大々的に行えば良いと思います。

**事務局**：民間で実施したことも過去にありました。JTBに入ってもらい、司会を吉本の芸人にお願ひし、学校で行ったのですが、やはり経費がかかり継続するのが難しかったということもありました。町全体をみて取捨選択をし、どこにお金を使うか決めることも重要だと思います。

**千葉委員**：町の事業だから町が投資するのかということそうではないと思います。イベントも独立採算で行っていかないといけない。そしてその独立採算の事業を補助する仕組みなどトータルで考える組織があってほしい。

**佐々木委員**：採算をとるのは必要です。採算をとって持続していかななくてはいけない。お金があるときだけ実施するというのは補助金の悪い所です。

**小田桐委員**：参加費用が6,000円ぐらいかかるようですが、それで採算はとれないのですか。

**事務局**：町の職員がいろいろやっているんで、難しいです。

**中島委員**：町の職員がやるのは良いのですが、民間を使って、職員は指示だけするようにすれば、それほど人数のとれないと思います。舵とりをやっていけば良いと思います。

**事務局**：では、基本目標4について説明します。

**事務局**：(説明後)基本目標顔が見え、つながりを実感できる安心で安全な地域をつくるというこの事業の中でご意見等ありますか。

**佐々木委員**：少子高齢化に対応した地域づくりというところですが、数字を見ると上手くいっているのかと思いますが、地域のつながりというと高齢者だけでなく、他世代との交

流もできれば良いのではないかと感じました。働き盛りの世代は難しいと思いますので、子どもとかですね。子ども食堂など孤食の問題などもあるので、集会所などで食をきっかけに高齢者と子どもが関わりをもてる活動があっても良いのかと思いました。

**事務局**：高齢者の見守りも含めた高齢者の居場所作りという事業でもあるのですが、小田桐委員どうでしょうか。

**小田桐委員**：宮代台のサロンなどは、赤ちゃんを連れて方や、100歳の方や他では見られない男性の参加者がいます。サロンはたくさんありますが、地域により特徴があります。確かにお子さんを交えるというのは面白いと思いますが、サロンは午前中から2時か3時頃までなので、時間帯的に子どもたちは学校に行っている時間です。なので、冬休みや夏休みを利用して、そういう取り組みをしてみてもはという話もできています。

**佐々木委員**：高齢者の1人暮らしは多いのですか。

**小田桐委員**：多いです。

**佐々木委員**：そういう方たちの夕食も対応するようなことがあっても良いですね。

**小田桐委員**：子ども食堂も今検討しているところです。生活に困窮されている方を直接対象としているわけではなくて、いろんな方面で考えているのですが。やるとすると夕方から実施を考えているので、そこに高齢者の方も呼べたらと思います。学校の給食だけが唯一のまともな食事という方もいるので、給食のない夏休みや冬休みに試行的にやってみようという方たちと検討しているところです。

**佐々木委員**：そういう面に町の協力があればありがたいですね。

**小田桐委員**：そうですね、教育委員会や福祉の担当から資金的な協力いただければありがたいです。

**中島委員**：そういう試みは平日なのですか。土日ですか。

**小田桐委員**：考えているのは平日の夕方です。

**中島委員**：そういうものを利用される方は、土日にやってもらいたいというところでしょうか。土日に役場をあけて、そのサポートをしてほしいですね。役場も平日休みにして土日をそういう方たちのために有効利用してほしいですね。

**小田桐委員**：必ずしも経済的問題が原因ではなく、母親が子どもの面倒を見なかったりなどあるので、お声掛けするのもなかなか難しいです。

**事務局**：生活困窮者だけでなく、普通に交流の場としてのサロンに子どもたちも参加できるようなものを不定期開催できればと、サロン交流会で話をだしても良いですね。宮代保育所だったと思いますが、保育園のお子さんがサロンへ遊びに行くというのを聞いたことがあります。そんな動きを拓げていけたら良いと思いました。

**渡邊委員**：世代の交流ということですが、子どもひろばで積み木教室をやっています。手前味噌な話になりますが、もともと私たち NPO で積み木を始め、それが子育てひろばへ積み木教室として移ったのです。積み木は高齢者の施設へ持って行って子ども達と一緒に遊んだり、障がい者の施設に持って行って遊ぶにはとても良いツールです。できれば私たち NPO 法人や子育て世代の方が別の場所で使えたりなど、積み木に限らず、ぜひ役場の中でもセクションを超えた横のつながりというか、活用方法をしていただきたいです。

**事務局**：有効利用された方が良いと思います。こちらからも言いますが町民の方からもそういう指摘をしていただければありがたいです。

**佐々木委員**：断られたのですか。

**渡邊委員**：ちょっと無理ですと言われました。今まで私たちは戸田市まで車2台で借りに行ってましたが、こんな近くにあるのであればと思います、もったいないなと思いました。一万ピースあるものです。

**事務局**：できることは有効利用して、違う対象、違う場所、といろんな仕掛けをして行けたらと思います。備品なので持ち出しについて制限はあるかもしれませんが、そこは調整しながら対応できればと思います。では、最後まで基本目標も終わりましたが、他にご意見はありますか。

**千葉委員**：町の中の縦割りを変えて欲しいです。昨年、トラスト祭りと文化祭と日工大の学園祭が同じ時期にあったが、それを個々に広報活動しているので、一緒に PR しないのはおかしいです。全体を見て市内の垣根を超えた広報を行って欲しいと思いました。

**渡邊委員**：役場のいろんな担当でいろいろ事業を行っているが、町民から見ると似たようなことをあっちでもこっちでもやっていると感じることがあります。

**佐々木委員**：今の話は総合戦略における広聴広報事業で統括すべきです。日工大や東武動物公園や町のイベントを町のホームページに全て掲載して整理すれば良いと思います。町民の会議みたいなものを作るべきです。こうやって話し合うことで、いろんな良いアイデアがでてきます。これを2回で終わらせてしまうのはもったいないです。また、この懇話会のメンバー以外にもアイデアを持っている人はたくさんいます。進修館という良い場所もあるし、テーマを決めて、ざっくばらんに話し合っただアイデアを整理して、その中で使えるものは使ってもらえるような仕組みがっても良いと思います。

**事務局**：そういう会議がいろいろあるのですが、佐々木委員のおっしゃるのはイメージとしては、全体的なものでしょうか。

**佐々木委員**：さきほど話にでたように、同じようなイベントがある場合、市民目線ですとすぐわかるのに庁内にいると気づかないことがあります。市民が話し合う場を作って、それを事務局にサポートしてもらっても良いと思います。私の研究室で事務局をやるということもありますが、そんな中に良いアイデアが生まれて、それを吸上げてやる方が、懇話会をやるよりもよっぽど効果があると思います。

**千葉委員**：マルシェや和e輪eなども、これは教育推進課、これはこっちというのではなく、もっと他の部署とも話し合っただできるようにしてほしいです。さきほどの積み木もそうです。

**事務局**：連携して効果的に事業ができるものは連携してやっていきたいと思っています。

**佐々木委員**：それはみなさんそう言います。縦割りをどうにかしますと言いますが、たぶんそれは難しいことなのでしょう。

**千葉委員**：結局、町って人事異動があります。それは理解しているのですが、人事異動によりまた最初からやり直しということにもなるので、もっと長期スパンで考えて欲しいです。課題は2年3年では解決しません。職員の方にも分野についての得手不得手があると思いますし。

**佐々木委員**：そういうことは議員さんが言うことだと思いますが、議員さんは地域の代表者でしかないのです、なかなかそこまでは難しいのでしょう。

**千葉委員**：能力が高かったのに移動してしまった職員もいます。

**事務局**：正直、職員の能力に左右されてしまう部分はあると思います。いつも同じような



人が同じようなところに配置されるというのも良くないことです。人事異動があっても事業は同じように続いていくというのが理想ですが。

**千葉委員**：単年度でできた成果をもって、次も同じようにやってほしいと言われても、ボランティアで事業に関わっていると無理な場合もあります。

**中島委員**：縦割りというのは昔からあるものです。この総合戦略の1つ1つ事業ごとに専属の担当課が記載されているが、そうではなくて1つの事業について連携しながら全ての課から立場ごとにアイデアを出し合っていくということをやっても良いと思います。担当が1番理解しているのかもしれないが、他の担当も違う観点で意見を持っているはずですよ。

**千葉委員**：町民まつりや文化祭など大きなイベントなどは、その担当だけが専属で行うのではなく、町全体で行うように他の担当からも助っ人的に参加できるような仕組みがあっても良いのではないのでしょうか。

**事務局**：中島委員がおっしゃったことは、総合力につながる所以需要だと思います。計画の方針を達成するために何ができるのかについて、庁内でも全体に問いかけはしますが、なかなか意見が出てこないため事業が偏ってしまうということになります。

**千葉委員**：山崎山は町民生活課、新しい村は産業観光課と担当は分かれています。あそこは一つの資源なので、うまくマッチングすれば町の魅力になるはずですよ。それが上手くできていないことが、新しい村の採算性の悪さに繋がっていると思います。

**事務局**：時間になりましたので、そろそろここで会議を終わりたいと思います。

**事務局**：会議が2回ということで、みなさんも意見が言い足りないことも多く、また事務局の不手際で皆さんにお願いすることに共通理解を図れなかったこともあり、申し訳ありませんでした。今後、皆さんからいただいた意見を、内部の推進本部に諮りまして、すべてを実施していくのは難しいと思いますが、次に活かして生きたいと思っています。皆さんは、日々各活動で活躍されていると思います。結果については、推進本部の結果を受けまして事業を見直していきたいと考えています。それでは皆さんありがとうございました。